

メーカー都合から、**ユーザー主導の開発**に切り替える「国際バリウスリンク会議」＝世界の複数のメーカーや公的機関による連携・打ち合わせ（公開）で、特許技術の進捗情報を共有し、**国際競争力のあるインフラや製品を確立する。**

現状の地域活性化策（地方創生・スタートUP・再開発等）は、基本的には企業都合の提案であり、培ってきた技術の範囲＆設備の流用を考え、狭い範囲の技術内容であり、真に**ユーザが欲しいものを追求していない。**

ステッパーで世界市場を席巻していたニコンが、ASLMに負けた要因は「技術を自社内で囲おうとしたこと」で、元ニコンのステッパーの開発者の弁「ステッパーに関する広範囲な分野の技術を自社内だけでやろうとしていたので、リソースが足りなくなった、苦しかった。」

全体主義国のウイグル自治区での強制労働による太陽光パネルの安値攻勢に対し、企業単独で戦った東芝日立パナソニックが撤退・リストラし、日本市場を奪われた。

全体主義国より強い体質

使いやすさ
& 低コスト

「最先端の特許技術」を多くの企業の力を結集し、ユーザーの意見を聞きながら、また法整備を進めながら、誰でもが欲しがるものを開発・提供する、

**Golden
TTM株式会
社に引き継ぐ**

楽しく取り組む
遠慮と批判厳禁

使う側の気持ちを最も大切にする。

将来の技術
シナリオに基
づき新しい
流れをつくる

ユーザー利益最優先

日本の将来の技術シナリオ提案

日米仏共同出資の海底資源探掘管理会社を日本に設立する。
高市・トランプ・マクロンの名から「GoldenTTM」と命名、27年1月～(社長は2年交代で日米仏から輪番)

GoldenTTM 株式会社 **案**

名誉会長: 高市総理大臣
会長: 小池都知事

国際バリウスリンク会議

統括戦略会議(各機関の業績評価)

東京都(司会)

全体会議(月一回)
第1金曜日午後2時～
(終了後自腹打ち上げ)

自由主義国(日米欧...)vs全体主義国(中ロ北朝イ)との経済戦争が始まっている。
中国はレアアースで、ロシアは天然ガスで、イランは原油(ホルムズ海峡封鎖)で、自由主義国にゆさぶりをかけており、逆に優位に立つよう、日米欧の共同研究連携を強化する。

金の大規模保有で優位に

本システムを利用して
採掘された海底資源
はGoldenTTMに帰属

(随時)

研究開発知財会議

(随時)

販売・設置・サービス・メンテ準備会議

(各国の地元サービス企業と連携しながら、各地の問題点の共有を行い、共通の対応策を模索する。)

海底3Dマップ・AI技術 レアアース精錬技術 金精錬技術

サブホストメーカー
オープンAI社

米国代表

サブホストメーカー
カレステール社

欧州代表

ホストメーカー
三菱マテリアル

アイデア提供
ガーデン
フィールド

幹事会(国際バリウスリンク会議の準備)

各国の合計は
優に100を超える

情報公開・会議準備・資料保管

常任

内閣府 経産省 国交省 環境省 外務省 東京都 JMU キヤノン A.U.V(米国)

日立製作所 パナソニック 三菱重工業 川崎重工業 日米仏(欧)の新規参入メーカー

オブザーバー参加

本システムの開発研究・採掘にかかった費用をすべて、Golden TTMに申告する。(事前計画書の提出)

Golden TTMは申告各社の業績評価(特許取得等を考慮)を実施、各社でのかかった経費の1.2~30xが支払われる。Golden TTMが仕向け地ごとに価格設定する。

全企業で全技術を共有する

(各国にて足りないところを補い合う)

米国内の企業はどこでも、オープンAI社が認めれば参加できる。欧州内の企業はどこでも、カレステール社が認めれば参加できる。全体のシステムのどこか一部でもよく、事前に計画書を提出し、何らかの形で貢献し、かかった経費の自己申告をすれば、かかった経費の最低でも1.2xを受け取ることができる。新しいシステムを導入した結果効率が大幅にUPした、あるいは画期的な特許を取得できたとなれば、最大経費の30xを受け取ることができる。

本システムの特許資料

https://www.garden-field.com/_files/ugd/954e39_e5a3d25d95c94bd18bc4382d2527b1cf.pdf

第一回官民バリウスリンク会議(10月2日)

- 1 オープニング挨拶(14時～)
(東京都知事)
2. 日本の排他的経済水域並びに公海での貴金属及びレアアースの埋蔵量推定と各採掘による環境への影響等(国交省)
3. 日本の排他的経済水域の貴金属及びレアアースの採掘の経済効果並びに公海での貴金属採掘の政治的課題(経産省)
4. 高水圧仕様海中ドローンのAIの仕様及び海底の3D画像マップからの鉱物資源探索方法について (鉱物資源あるところの外観は?)(オープンAI社)
5. 深海底の鉱物資源採掘システムの特許概要の説明 (ガーデンフィールド)

参加任意

千円徴収の打上げ会(～17時)

第二回官民バリウスリンク会議(11月6日)

- 1 オープニング挨拶(14時～)
(東京都知事)
2. 高水圧仕様のAI海中ドローンの技術概要(A.U.V: Autonomous Underwater Vehicle)
3. 南鳥島近海でのレアアース泥の採掘及び精錬の国際連携の概要と「海底資源採掘箱」の有力アイデアの紹介(東京都)
(スタートUP企業等からアイデアを募集)
4. ロボットクレーンの仕様概要、機雷の保管方法及び金採掘ユニットの海中への投入方法について(今治造船)
5. 中国のレアアースの生産システムと本システムでの生産システムの違いとコスト比較(フランス:カレステール社)

参加任意

千円徴収の打上げ会(～17時)